

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年五月度 入選句（投稿総数二千百十八句・一般投句数六百九十九句）

特選 選者 大橋 庄一郎

誇らしげ鯉のぼりみる若き嫁 大垣市 浅野 亨

残念乍ら男女共未婚の方が多く、又少人数出産で人口減少化時代の今、一家の後継者となる男の子を出産され、家族は勿論親戚中の喜びの中、お祝に戴かれたか求められたか、鯉のぼりを揚げられ、若きお嫁さんが誇らしげに見上げられる姿は、幸そのものだと思います。上五の「誇らしげに」がいい

稚児芸に母の嗚咽が山車の陰 不破郡垂井町 西垣 和志

大垣市の芸軸は船町と伝馬町に有りますが、共に八才前後の可愛い子が、あの狭く時には傾斜になり動く舞台でよくあんな上手に踊れるものだと感心して居ります。二月頃からお稽古をされ、お子さんもお母さんも家族の方も大変だったと思います。立派に踊りを終えられたお子さんの姿に山車の陰で嗚咽されたのは、親子の情の美しさであり、写生がよく出来ています。

湧水や旅人癒す暮の春 静岡県浜松市 田中 安夫

大垣の自噴水そしてその味が旅人を癒すのをよまれ有難うございました。自噴水は多く有りますが、水の都、水都と云はれる割りには、これを代表する、シンボリックなものが無い、幸い駅前交番南の大垣駅南街区に素晴らしい公園用地が出来た、二年程はモデルルーム、事務所として使はれるがその後日本一の自噴水を作って頂き度いとお願いをして居り、水都大垣の看板となる様な自噴水が出来、沢山の自噴水のよい句が誕生するのを待ち望んでゐます。

秀逸

職退きし友に派手めの春シヨール 養老郡養老町 田中 紫香

眠りより覚めし化石や春の月 大垣市 大西 誠一

今年もね会えてうれしきひな人形 本巢郡北方町 鈴木 淳子

菜の花にまぎれし蝶のかくれんぼ 大垣市 渡辺 一光

方丈を囲む躑躅や山の寺 大垣市 安田 直隆

帯祝い春の戌の日母の愛 大垣市 谷 睦月

犬ふぐり小さき花に空の色 大垣市 高石 政明

抱いた子も法被はち巻き春祭 大垣市 清水 登美子

裕次郎ひばりも語り昭和の日 大垣市 早崎 美弥子

母の日や素直に言えぬありがとう 大垣市 山田 千歌子

入選

夕間暮木蓮白を失はず
 満開も散るも風情や山桜
 蕉翁の偉業に伏して春の旅
 始めての遠足嬉し寝つけぬ児
 酔ふ地酒蔵の奥まで花の冷え
 それぞれのお口訛りや入社式
 被爆の碑隣に白き花水木
 風に舞い雪と見まごう花ふぶき
 散る花や川面を染めて春惜しむ
 ふれ太鼓祭りの町を起こしゆく

養老郡養老町 田中 紫香
 養老郡養老町 田中 秀子
 兵庫県西宮市 山田 千紫葉
 安八郡神戸町 早津 郁男
 大垣市 中山 あや子
 大垣市 横井 明克
 大垣市 藤井 早苗
 大垣市 市川 昭子
 大垣市 菊池 喬三
 大垣市 清水 登美子

入選

内緒なき童の会話花筵
 春の陽をかりてうたたね昼下がり
 花冷の紙子一衣の欲しき旅
 花吹雪浴びつつ見上ぐ一夜城
 散りてなほ桜川面をいろどりて
 花いかだふたてにわけてたらいぶね
 街薄暑湧水多き城下町
 はくれんの無傷の花弁文机に
 夫に無き月日を生きて遍路旅
 花の中柳ひときは緑して

不破郡垂井町 児玉 信子
 大垣市 吉田 てるみ
 東京都文京区 上部 隆男
 千葉県千葉市 大久保 文夫
 恵那市 西尾 和洋
 大垣市 中嶋 佐千代
 安八郡神戸町 高橋 日出美
 安八郡神戸町 後藤 和郎
 不破郡垂井町 竹嶋 富美子
 不破郡垂井町 大羽 志津子

選者吟

西空にいきなり虹の立ちにけり

庄一郎